

タイトル

クラス：1

学籍番号：123ABC

氏名：苗字名前

1 いろいろと試す

1.1 シンタックスハイライト

ちゃんとできる。カスタマイズも楽。

test あああ.html

```
<div class="theorem">  
  <div class="theorem-heading"></div>
```

数列 $\{a_k\}$ について考える。

```
</div>
```

インラインのコードは `こんな感じ、aiueo` になる

1.2 囲み枠

例 1.1.

数列 $\{a_k\}$ について考える。

例 1.2.

数列 $\{a_k\}$ について考える。

例 1.3.

数列 $\{a_k\}$ について考える。

ちゃんと番号がインクリメントされている。

1.3 囲み枠続き

例 1.4.

数列 $\{a_k\}$ について考える。

1.4 番号付き数式

$$\sum_{k=m}^n a_k = a_m + a_{m+1} + \cdots + a_n \quad (1.1)$$

1.5 表のサンプル

表と図の区別は、`<figure>` 要素のどこに `<figcaption>` 要素があるのか

- 一つ目の場合：表として扱われる
- 一番最後の場合：図として扱われる

表 1 銅線の抵抗値の温度変化

温度 $t(^{\circ}\text{C})$	19.0	24	28	30	19.0	24	28	30
抵抗 $R_{ab}(\Omega)$	7.3	7.4	7.5	7.6	7.3	7.4	7.5	7.6
抵抗 $R(\Omega)$	7.2	7.3	7.4	7.5	7.2	7.3	7.4	7.5

1.6 図のサンプル

次のような記法を使用します。

```
![銅線の抵抗値の温度変化](assets/1_銅線.png){.fig #fig-Cu width=500}
```

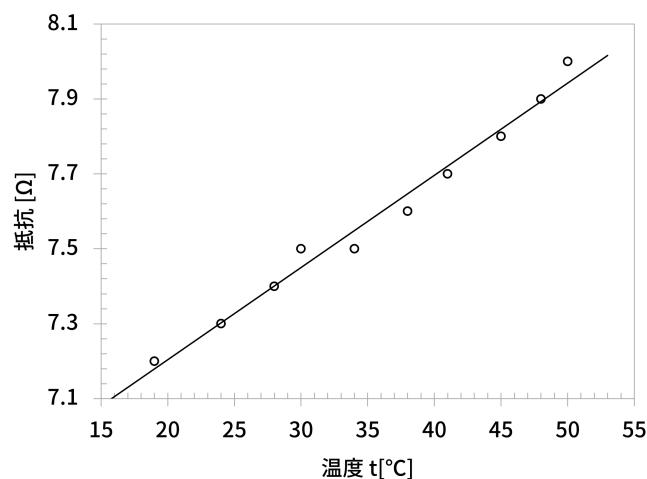


図 1 銅線の抵抗値の温度変化

- `.fig`
 - 図のためのクラス
 - おそらく、`theme-academic` で定義されていたはず
- `#fig-Cu`
 - 図の id

- 一意にする必要がある
- 別の場所から図のidを用いて参照できる
 - 例
 - 「`[](#fig-Cu){.fig-ref}`」のように使用する
 - 「図1」のように使用する
 - `.fig-ref` は、このリポジトリで定義したCSSクラス
 - 図に振ったidを、aタグを介して取得しているらしい
 - 図の番号は自動で挿入される

1.7 番号付き数式続き

$$\sum_{k=1}^5 k^2 = 1^2 + 2^2 + 3^2 + 4^2 + 5^2 = 55 \quad (1.2)$$

2 段落2

章をまたぐと、数式や「例」の番号がリセットされる。

例 2.1.

数列 $\{a_k\}$ について考える。

$$\sum_{k=1}^5 k^2 = 1^2 + 2^2 + 3^2 + 4^2 + 5^2 = 55 \quad (2.1)$$